

蛇口を閉じてみれば

横浜市立南戸塚中学校

三年 前田 千尋

「水を節約しなさい。」とは、よく言われたことです。顔を洗うときは洗面器に水をため、お皿を洗うときはある程度汚れをふきとってから―というように、家だけではなく、学校やテレビなどでも教育をされてきたはずで

す。
ですが、一体何のために節水をするのでしょうか。家での節水は水道代の節約、ということでしょうが、学校やテレビでも呼びかけるのは、何か他の理由があるに違いありません。

そこで私は、節水について調べてみました。
すると、一つの記事の中に、

「水は有限の資源である」
と書かれていました。私ははっと気付かされました。石

油や、石炭などが限りある資源であることは、私たちのよく知る通りです。しかし、水が限りある資源であることなど、常に考えて生活することができでしょうか。だって、周りを見わたせば、たくさん川が流れ、広大な海が広がっているのですから―。

ですが、よくよく考えてみれば、これはあたりまえのことに過ぎません。あふれるほどの海や川だって、無駄に使われれば、循環は追いつかなくなり、いつか底をつくでしょう。

また、綺麗な水を使うには、浄水場の存在は不可欠です。ただ、浄水場で水を綺麗にするときにも、電気を使います。電気を作るためのエネルギーは、多くの国が化石燃料に頼っています。つまり、水を無駄に使うことは、間接的に見ても有限の資源を大量に使ってしまうことになるのです。

さらに、水を節約することは、水が有限の資源であるというのとは別の観点から見ても、非常に大切なこととなります。

世界に、安全な処理をされた水を飲めない人がまだ多くいることは、誰もが知っていることでしょう。汚れた

泥水を飲むために、毎日八キロメートルもの道のりを往復して、水を汲みに行くなどというのは、あまりにも有名な話です。

私たちが余分に使っている水を、世界中のそうした人々へ届けたい。これは、ごく自然に浮かびあがる思いではないでしょうか。

ならば、水を余分に使わなければいいだけの話なのです。

そんなの直接的な支援にはならない。意味はない。実際私が抱いた感想もそうでしたし、あなたが間違ったことではないでしょう。よっぽど、支援団体に募金をするなり、寄付をするなりしたほうが、彼らの助けになるでしょう。

しかし、水を使うことは資源を使うこと。毎日、私たちに綺麗な水を届けるために、今日も発展途上国では木々が切り倒され、森林面積は減少しているでしょう。森林は天然のダム。これがなくなれば、彼らの水が今以上に汚れ、人体に害を及ぼすことは、目に見えています。

森林で水をろ過することができなくなるのですから。だから、節水することで、それを防げると思うのです。

もしかしたら、そんなに変わることはないのかもしれないけれど、小さな積み重ねが、やがて実を結ぶ、と私は信じています。

私たちが無駄に使っている水は、日本だけでも約百二十億リットル。少しでもこれを減らしていけるよう、今日はいつもより長く蛇口を閉めてみませんか。